

# 琉球病院 Monthly



独立行政法人  
国立病院機構 琉球病院  
National Hospital Organization RYUKYU Hospital

Vol.76  
2019. April

発行者 琉球病院事務部長  
秋好 輝雪

## 基本理念 この病院で最も大切なひとは医療を受ける人である

新年度に当たり、ご挨拶いたします。

院長 福治康秀

平日頃は、関連機関の皆さんには、各種連携いただきありがとうございます。

当院では、昨年度建て替え工事の完成がありました。平成27年に、精神科病棟の建て替えが完成しましたが、昨年度は重度心身障害児(者)病棟とリハビリテーション棟の完成があり、これで1期と2期工事すべての完成となりました。関係者の皆さんのおかげだと感謝しています。これを機に、さらに各種専門医療の機能強化を図るべく頑張っていますが、特に重度心身障害児(者)医療とリハビリテーションの機能強化に取り組んでいるところです。また、さらに救急医療にも力を入れます。公的病院としての役割をしっかりと果たすべく、職員一同全力で取り組みます。

精神医療の地域移行が叫ばれて久しいです。当院でも、長年の入院患者さんを一例一例丁寧にしっかりと地域移行を進めています。その取り組みと同時に、新規入院患者さんは、しっかりと早期退院を図るべく、チーム医療で取り組んでいます。地域で患者さんを支えるにはどうしたらよいか、日々スタッフと相談しています。今後は精神医療もさらに地域移行が進みます。地域で、患者さんたちが充実した生活を送るためには何が大事なのがポイントになると思います。当院は、医療の提供ですので、地域での生活の一部を提供しているわけですが、患者さんたちが地域で充実した生活を送るのに必要なことは何かを常に念頭に置き、生活すべてを見据えたサポートは何か、全人的な視点が重要と考えます。当院職員一同で、それを念頭に置き、さらにより良いサービスを提供する決意です。



3月22日と23日に、九州アルコール関連問題学会を主宰しました。糸満晴明病院をはじめ各関連機関の方々の協力により、無事に開催することができました。ありがとうございました。10月11日と12日には、日本病院・地域精神医学会を、新垣病院をはじめ各関連機関の協力のもと沖縄県男女共同参画センター「ているる」、パシフィックホテルで開催します。テーマを、

「安心して病むことのできる社会—多様性があるがままに共に歩いていくチャンプルーの島沖縄で—」とし、鋭意プログラムを作成中です。随時ご案内しますので、ぜひ皆様の御参加をお待ちしております。

今年度も、どうぞよろしくお願いいたします。



## トピックス

### 行事・出来ごと

- 病棟等建替 進捗状況 本体工事：新病棟（第1期工事）完成・・・平成27年7月
- 整備の動き 雨水配水管盛替工事 完成・・・平成29年2月
- 新病棟（第2期工事）完成・・・平成30年10月

### 教育・研修

#### ● 琉球病院新規採用職員等研修

日時：平成31年4月2日（火）～4月4日（木）  
場所：研修棟会議室 対象：琉球病院への新採用者・転入者

## ● 地域医療連携室だより

当院は、精神科の中でも専門分野があり精神科病院、総合病院、地域関係機関などから受診、入院相談が来ます。来院相談もありますが電話相談が多く、児童、アルコール、認知症、クロザピンなどの相談を連携室で対応しています。入院病棟には担当の精神保健福祉士がいて、カンファレンスや環境調整を行い関係機関と連携しています。

相談や詳しいことを知りたい時は、当院のホームページや直接地域医療連携室にお尋ね下さい。

## 院長

福治康秀（ふくじ やすひで）  
1964年生まれ、那覇市出身、首里高校卒。  
1993年琉球大学医学部卒、琉球大学医学部精神神経科入局。  
95年那覇市立病院精神科、96年琉球大学精神神経科、2009年琉球病院精神科部長、2010年副院長を経て2014年琉球病院長に就任。  
日本病院・地域精神医学会理事。



## 診療科

- 一般精神科
- こども心療科
- 物忘れ外来
- アルコール依存症等外来

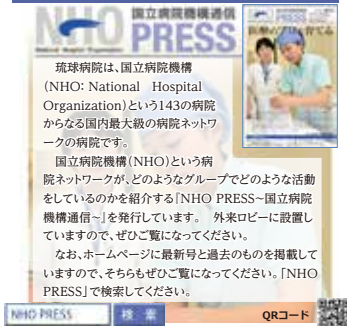
## 病床数 416床

- 精神科病棟 151床
- 認知症 56床
- アルコール 54床
- 児童思春期 ユニット 4床
- 重症心身障がい 90床
- 医療観察法 37床



● アクセス  
路線バス / 那覇BS(下り)または名護BS(上り)より沖縄バス「17番名護線」浜田バス下車徒歩3分  
自動車 / 那覇市から40分  
沖縄自動車道金武インターから名護向け5分

## NHO PRESS～国立病院機構通信～について



お問い合わせ時間  
8:30～17:15（土・日・祝日以外）  
TEL：098-968-2133（代）  
内線：231・234  
地域医療連携室（直通）  
TEL：098-968-3550  
FAX：098-968-7370

## 治療抵抗性精神疾患への医療



### クロザピンの治療状況

平成22年から治療抵抗性統合失調症の患者様に対してクロザピン(CLZ)治療を開始し、全症例は263例になりました。平成31年2月のCLZ導入は3例で、このうち2例は他の病院からのご紹介をいただきました患者様でした。(入院中1例、通院中1例) CLZ治療前には暴力行為や多飲水などの問題行動のために隔離が必要な患者様も多くいらっしゃいましたが、CLZ継続例では問題行動も少なくなり、隔離は解除できています。週に3回の専門外来も行っていますので、患者様のご紹介をお願いいたします。

### m-ECT (修正型電気けいれん療法) の治療状況

当院では、m-ECT (修正型電気けいれん療法)による治療を行っています。平成31年2月の治療実績はありませんでした。

## こども心療科

当院では、沖縄県より「子どもの心の診療ネットワーク事業」の委託を受け、子どもの心の健やかな育ちを支える支援体制整備に向けた取り組みを進めています。その取り組みの1つに離島支援があり、現在、宮古島、石垣島、久米島の3島への支援を行っています。

今年度はこれまでの活動を振り返り、より効率的・効果的に支援できる方法を検討するため、各地域の支援者と話し合いを重ねました。島によって人口規模や社会資源、支援課題は異なるため、地域の実状を踏まえ当院として何ができるかを考える1年となりました。

限られた時間の中で、地域の支援ニーズに応えられる事業展開を目指し、次年度は、各地域で行われている支援体制整備に向けた取り組みとの連動を高めていきたいと考えています。具体的には、各圏域で行われている既存のネットワーク会議の中で、当事業による支援計画を地域の支援者と一層に考えられるような連携構築に向けて調整を行っていきます。

今後も、地域の支援者の声を事業計画に取り入れながら、より良い支援が提供できるよう努めていきたいと考えています。

## 認知症医療

3月は病棟行事としてデザートバイキングを行いました。あまくて美味しいスイーツを調理師さんに作製していただき、コーヒーとともに堪能しました。当日は、県内で音楽活動されているまっしーさんの歌と生演奏の披露もあり、和やかな雰囲気と、笑顔・癒しに包まれたたひと時でした。

今後も、病棟行事として患者様に楽しみや感動を与えられる企画を行事委員やレク係と検討していきたいと思っております。

## 重症心身障がい医療

3月9日(土)、第41回九州地区重症心身障害研究会が福岡県の九州大学医学部百年講堂で開催されました。医療、看護、介護、リハビリテーション、栄養、日中活動支援、療育環境設定、強度行動障害、行動制限、家族支援、意思決定、倫理、QOL、福祉等、多岐に渡る領域で研究発表が行われ、「重症心身障害児(者)の緩和ケアについて考える」をテーマに西南女学院大学の笹月准教授から特別講演が行われました。

当院からは医療、看護、療育の分野から3題の研究発表を行いました。行ったことをまとめ発表する事や、他施設の取り組みを参考にすることは、スキルアップ及び利用者支援の向上につながると思います。

来年は熊本県での開催になるとの事ですよ!

## アルコール・薬物依存医療

平成25年5月27日、アルコール依存症の新しい治療薬「レグテクト」が発売となりました。レグテクトは、アルコール依存症の方の強い「飲酒欲求」を直接和らげてくれる作用があります。当院では31年2月末現在、外来通院の患者様95名、入院中の患者様11名の方が服用されています。内服している方は「飲酒欲求が軽減した」と話され、再飲酒の抑制につながっています。また、当院の外来での調査では、レグテクト内服を継続している患者様の方が、治療継続率が高いという結果も出ております。患者様へは、適宜導入を勧めています。断酒が困難な方は、ぜひ外来を受診し相談して下さい。

## 包括的地域精神医療

新年度をむかえ、4月には訪問看護スタッフの配置換えがあり新たなメンバーが加わりました。今年度から、院内デイケア部門と訪問看護部門が同部署となつてのスタートとなります。多職種チームでのかかわりを強化し、地域ネットワークを生かしながら具体的な援助活動ができると思います。よりいっそう、連携の強化を図り、アウトリーチの充実を目指しています。

沖縄では、うりずんの季節となり若葉がいっせいに咲きほこり、草花は鮮やかに彩りを増し心地よい陽気となっています。在宅での訪問看護利用者様も、子どもの入学の準備や清明祭の御馳走の準備、家族や親せきが集まり忙しい日々をこなしていることにたくましさや力強さを感じます。

## 臨床研究部活動状況

### 第31回九州アルコール関連問題学会 沖縄大会のご報告

平成31年3月22日(金)・23日(土)に沖縄国際大学において第31回九州アルコール関連問題学会を開催しました(大会長:福治康秀 琉球病院院長 主催:琉球病院 共催:糸満清明病院)。今回は『連携再考-アルコール健康障害対策推進計画策定後の連携を考える-』をテーマに、初日はランチョンセミナー、分科会、イブニングセミナー、ポスターセッションと特別公演ではさいがた医療センター(前琉球病院院長)村上優先生に「アディクション医療のこれまでとこれから」をテーマにご講演いただきました。また二日目は「アルコール健康障害対策推進計画策定後の連携を考える」をテーマに市民講座を開催しました。おかげさまで盛況のうちに終えることができました。講師・座長・演者の先生方、参加者のみなさまに感謝申し上げます。